

平成28年度(2016年度)
[平成28年4月1日～平成29年3月31日]

事業報告

公益財団法人 マツダ財団

目 次

平成 2 8 年度(2016 年度)事業報告 (総括)	1
・ 科学技術振興に関する活動の概要	2
- 1 . 研究助成	2
1 . 募集・応募・選出状況	2
2 . 助成件数の推移	3
3 . 第 3 2 回(2016 年度)マツダ研究助成一覧	4
4 . 第 3 2 回(2016 年度)マツダ研究助成奨励賞一覧	5
- 2 . 事業助成	6
1 . 募集・応募・選出状況	6
2 . 助成件数の推移	7
3 . 第 3 2 回(2016 年度)マツダ事業助成一覧	8
- 3 . 科学わくわくプロジェクト	9
・ 青少年健全育成に関する活動の概要	11
1 . 研究助成	11
1 . 募集・応募・選出状況	11
2 . 助成件数の推移	12
3 . 第 3 2 回(2016 年度)マツダ研究助成一覧	13
2 . 市民活動支援	14
1 . 募集・応募・選出状況	14
2 . 支援件数の推移	15
3 . 第 3 2 回(2016 年度)マツダ市民活動支援一覧	16
3 . 感動塾・みちくさ	17
4 . スタートラインプロジェクト	18
5 . 第 3 5 回講演会	20
6 . 大学寄付講義の実施概要	21
7 . その他の活動	22
・ 管理事項の概要	23
- 1 . 役員等に関する事項	23
1 . 平成 2 9 年 3 月 3 1 日現在の役員・評議員の名簿	23
2 . 役員等の異動状況	23
- 2 . 職員に関する事項	24
- 3 . 理事会・評議員会等、主な活動事項	24
- 4 . 所管行政庁への申請・届出・提出に関する事項	25
- 5 . 登記に関する事項	25
- 6 . 附属明細書	25

平成28年度(2016年度)事業報告(総括)

当財団の設立目的である「科学技術の振興」、「青少年の健全育成」について次の活動を行いました。この活動のためマツダ株式会社から寄付を受け、低金利による運用収益低下の影響を最小限に抑え、ととも、最大限の社会貢献に資するべく創意工夫をしました。

まず、科学技術振興分野では、先進性・独創性のある研究に対して助成を行いました。特に、「若手研究者」、「萌芽的研究」、「循環・省資源への寄与」に継続して注力しました。また、青少年の科学離れへの対応として、小中高校生を対象に科学にワクワクする機会を提供し「科学するところ」を養うことを目指した事業「科学わくわくプロジェクト」を、広島大学等と連携して、実施しました。

次に、青少年健全育成分野では、市民活動との連携強化を図り、市民活動の活性化に寄与する実践的な研究に絞って助成を行いました。市民活動支援は、広島・山口両県における青少年健全育成のための地域に密着した活動に助成しました。体験を通して小学生に感動を与えるプロジェクト「感動塾・みちくさ」は、(公財)広島市文化財団と共同開催しました。講演会では、国谷 裕子氏を講師としてお招きし、「2030年、そのとき、私たちは」と題してお話をいただきました。1,300名の聴講者があり、好評を得ました。大学講義では、広島修道大学にて単位互換「ボランティア活動」を行いました。また、2013年度よりNPO法人ピピオ子どもセンターとの連携で開始した「スタートラインプロジェクト」事業は、支援活動を更に充実させました。また、“若者自立支援”をテーマとして取り上げ、情報収集・分析・研究を踏まえ、有識者、市民活動団体および若者等との意見交換を重ね、次年度からの若者のための新規事業「若者×ツナグバ」の事業計画を立案しました。

科学技術振興関係

研究助成

機械、電子・情報、材料の3分野を対象に33件3,300万円の助成を行いました。さらに、このうち特に優れた研究4件に「マツダ研究助成奨励賞」として副賞50万円、計200万円を追加助成しました。(国内/公募)

事業助成

研究者等による小中高の生徒を対象とした「科学体験」事業に15件200万円の助成を行いました。(中国地方/公募)

科学わくわくプロジェクト

教科書にとらわれない高度な科学体験により、小中高生の「科学するところ」を養うことを目指す「科学わくわくプロジェクト」を、広島大学等と連携し「科学わくわくプロジェクト実行委員会」を立ち上げ、実施しました。(連携事業/参加者公募)

青少年健全育成関係

研究助成

青少年健全育成に係る市民活動の活性化に役立つ実践的な研究7件に計500万円の助成をしました。(国内/公募)

市民活動支援

青少年の心豊かな成長の一助となる地域に密着した民間の非営利活動33件に計875万円の支援をしました。(広島県・山口県/公募)

感動塾・みちくさ

子どもたちが自然に触れ、体験や実験などを通じて、科学に対する興味を深め、自分たちで創意工夫することにより科学を学ぶ心を養うことを目的に、(公財)広島市文化財団との共催で、3施設で実施しました。(連携事業/参加者公募)

スタートラインプロジェクト

被虐待児等の自立を支援することを目的に、NPO法人ピピオ子どもセンターとの連携で、被虐待児等の成長や、それを支えるスタッフの能力開発、活動基盤の充実を支援する事業を実施しました。(連携事業/公募)

講演会の開催

当財団の活動主旨を広く知っていただく活動の一つとして、国谷 裕子氏を講師に迎え実施しました。

大学寄付講義

広島修道大学にて、単位互換「ボランティア活動」の講義を行いました。

事業の概要を以下に記します。

．科学技術振興に関する活動の概要

- 1 . 研究助成

1 . 募集・応募・選出状況

第32回(2016年度)は、以下により実施しました。

(1)募集

次の内容で募集を行いました。

(a) 助成趣旨

天然の資源に恵まれない我が国においては、科学技術の育成・振興が重要な課題です。このために、主として科学技術に関する学術研究に対して助成し、振興をはかることにより、調和のとれた科学技術の向上をめざし、文化への貢献ならびに広く社会の発展に寄与することを目的としています。

(b) 助成対象

現在ならびに将来にわたって解決が求められている科学技術に関する基礎研究および応用研究、特に、機械、電子・情報、材料の3分野に係わる先進的・独創的な研究。

- | | |
|----------------|------------------|
| (c) 募集方法 | 公募 |
| (d) 助成金総額 | 3,300万円 |
| (e) 助成件数 | 33件 (1件あたり100万円) |
| (f) 助成期間 | 1年または2年 |
| (g) 募集期間 | 2016年4月18日～5月31日 |
| (h) マツダ研究助成奨励賞 | |

マツダ研究助成対象の中から特に優れた研究に対して授与する。

副賞(追加助成金)	50万円/件
追加助成金総額・件数	200万円、4件

(2)応募状況

締切りまでに合計453件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

- | | | |
|------------------|--------|-----------|
| (a) 地域別 | ・中部以東 | 253件(56%) |
| | ・関西以西 | 200件(44%) |
| (b) 分野別 | ・機械 | 104件(23%) |
| | ・電子・情報 | 100件(22%) |
| | ・材料 | 249件(55%) |
| (c) 若手研究者(40才以下) | | 267件(59%) |

(3)助成対象者の選出

科学技術振興関係選考委員会(7月29日、30日開催)において慎重に審査された結果、助成候補として33件、研究助成奨励賞候補として4件が選出され、第27回理事会において正式に承認決定されました。

(4)助成贈呈書の贈呈

2016年10月に申請代表者を訪問し、贈呈書を贈りました。

2. 助成件数の推移 - 科学技術振興関係 -

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	本年度(第32回) 2016年度	本年度(第31回) 2015年度	第30回 2014年度
応募件数(件)	453	416	401
助成件数(件)	33	25	25
助成比率(%)	7.3	6.0	6.2
助成金総額(万円)	3,500	3,200	3,200

(地域別状況)

地域	2016年度		2015年度		2014年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
中部以東(件)	253	24	230	16	220	12
近畿(件)	82	5	96	4	79	5
中国・四国(件)	68	3	55	3	55	4
九州・沖縄(件)	50	1	35	2	47	4
合計(件)	453	33	416	25	401	25

左側数字：応募件数、右側数字：助成件数

(分野別状況)

分野	2016年度		2015年度		2014年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
機械(件)	104	8(5)	93	6(4)	91	6(2)
電子・情報(件)	100	7(2)	96	6(3)	93	6(1)
化学系材料(件)	131	10(8)	124	7(6)	114	7(4)
物理系材料(件)	118	8(6)	103	6(3)	103	6(5)
合計(件)	453	33(21)	416	25(16)	401	25(12)

左側数字：応募件数、右側数字：助成件数、分類は審査時
()内の数値は循環・省資源に寄与する研究で、内数

3. 第32回(2016年度)マツダ研究助成一覧

- 科学技術振興関係 -

助成対象研究の概要は、以下の通りです

印付きは循環・省資源に係わる研究

S印付きは研究助成奨励賞受賞

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【機械】		
超高温環境下における変形分布計測システムの開発と応用	井上 遼 東京理科大学 基礎工学部助教	100
本研究は、申請者らがこれまで開発した超高温観察装置と画像相関法を組み合わせ、1200 以上の環境における材料表面の変形分布を三次元的に計測できるシステムを確立し、有用性を実証することを目的に行う。はじめに、計測に不可欠な周辺技術を確立する。ついで、標準試料を用いて計測精度の評価を行い、システムの性能を明らかにする。次世代の航空機エンジン部材用セラミックス系複合材料に応用し、高温での不均一変形分布を定量的に評価する。これらから、高温環境下での変形分布を計測できるツールとして汎用的な形で提案する。		
周波数変調信号と最適窓関数を利用した非接触1探触子空中超音波検査技術の開発	石川 真志 徳島大学 大学院理工学研究部助教	100
空中超音波を用いた構造物等の非破壊検査は、一般的なカプラント(接触媒質)を利用した超音波検査と異なり対象物に対して非接触での検査が可能であるが、従来技術では探触子を2つ用いた透過法もしくはピッチキャッチ法しか実現されていない。本研究では空中超音波による検査の高効率化の為、1つの探触子のみで検査可能な1探触子反射法の実現を目指し、解析的な検討から同手法に適した送信波形条件の最適化を行うとともに、最適化された波形を送信可能な超音波探触子を試作し、その実証試験を行う。		
種々のひずみ速度における力学場駆動マルテンサイト変態及びその逆変態を利用した鉄基合金の自己治癒機能の検討	岩本 剛 広島大学 大学院工学研究院准教授	100
き裂を対象に、様々なひずみ速度における変形中に生じる力学場駆動マルテンサイト変態とその逆変態を利用した自己治癒機能の発現、及びその条件を検討する。そのため、熱処理後の予き裂入り薄板試験片を準備し、種々のひずみ速度にて引張変形させる。その際、デジタル画像相関法によりひずみ、ひずみ速度分布を求め、き裂の閉口により自己治癒現象の発生とその条件を確認する。併せて、J積分等を測定することにより、それらが自己治癒機能により向上することを確認し、発生条件の妥当性を検討する。		
LITGSによる高圧層流火炎の定量温度計測技術の確立	早川 晃弘 東北大学 流体科学研究所助教	100
ガソリンエンジンなどの実用燃焼器においては高圧燃焼が行われており、高圧下における燃焼現象の解明は非常に重要である。そのためには高圧火炎の計測技術の開発が不可欠となる。本研究は、Laser Induced Thermal Grating Spectroscopy(LITGS)を用いた、高圧火炎の定量温度計測技術の確立を目的とする。LITGSは2つのレーザーが交差する点における音速から気体温度を計測する手法であり、その原理上、高圧下ほど信号取得に有利であると考えられている。本研究では高圧層流火炎の温度計測を実施し、LITGSによる定量温度計測技術の確立とその計測精度を検討する。		
革新的1軸制御ベアリングレスモータの効率を最大化する構造及び制御に関する研究	杉元 紘也 東京工業大学 工学院助教	100
産業用の冷却ファン、ブロー、ポンプなどの寿命は、機械的なベアリングの寿命に律速されているため、ベアリングのメンテナンスや交換が必要である。また、モータの小型・高速・高効率化が進む一方、ベアリングの損失が浮き彫りになりつつある。そこで本研究は、ベアリングを用いず、磁気支持によりモータの回転軸を非接触支持しながら回転させることが可能な1軸制御ベアリングレスモータについて、効率を最大化する構造及び制御システムの基礎を構築し、実機検証する。		
キンク変形を応用した炭素繊維強化積層構造体の曲げモーメント織込型プレストレス構造設計に関する研究	雷 霄雯 福井大学 学術研究院工学系部門講師	S 150
高い強度と軽さを併せ持つ炭素繊維強化プラスチック材料(CFRP)は、橋梁・飛行機・自動車など大型構造物からスポーツ道具・生活用品などの様々な用途に利用が広がっている複合材料である。本研究ではCFRP積層構造体の板要素および構成するファイバーに外力を負荷した時に生じるキンク変形を積極的に利用して、残留応力分布の一般化力に相当する曲げモーメントを構造の中に織り込んだ新しいタイプのスマート構造のプレストレス設計に関する研究を行う。従来の軸力型のプレストレス設計に対して、異方性の制御、新しい構造モニタリングに応用できると期待される。		
超臨界流体を利用した超深穴レーザー加工	吉木 啓介 兵庫県立大学 工学研究科助教	100
超臨界二酸化炭素をアシスト流体とすることで超深穴レーザー加工を実現する。まず、本流体を利用した加工屑除去メカニズムを熱流体解析によって定量的に明らかにし、実験との比較によってその正当性を確かめる。実験においては、加工、観察用にそれぞれ窓のついた压力容器を用い、加工の様子をICCDカメラとレーザーパルス発振の同期により、サブマイクロ秒の時間分解能でコマ撮り撮影ができる機能を用いる。これにより、流体の流速分布を計測することで、計算結果と実際の違いを明らかにする。		
機械力学の観点から見た膝関節再建術靭帯断裂メカニズムの解明	武田 量 北海道大学 大学院 工学研究院助教	100
本研究では膝関節靭帯の断裂メカニズムを解析する。万能材料試験機、膝関節固定用治具、恒温高湿庫からなる実験装置を作成する。実験では膝関節の代替モデルとしてブタ膝モデルを用いる。膝関節固定用治具に膝モデルを設置し、乾燥劣化を防ぐため恒温高湿庫内で力学試験を行う。材料試験機駆動部と関節固定用治具間には力覚センサを介し荷重を測定する。恒温高湿庫には試験片挿可能な操作口を設置し、靭帯組織が断裂するまで膝モデルに荷重を与える。靭帯組織断裂時の荷重・トルクを力覚センサにより測定する。		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【電子・情報】		
キャッシュを用いたパケット転送処理の省電力化および高速化に関する研究	八巻 隼人 電気通信大学 大学院情報理工学研究科助教	100
近年、世界的な電力消費量の増加による地球温暖化が深刻化しており、対応の一つとしてルータの省電力化が叫ばれている。今後、通信量が爆発的に増加することからも、従来のTernary Content Addressable Memory(TCAM)をベースとしたパケット処理は、消費電力および処理性能の点から問題がある。そこで、従来のTCAMに、より高速かつ低消費電力なキャッシュメモリを併せた新しいパケット処理機構を提案する。本研究では、提案機構のキャッシュ利用効率を改善し、パケット処理における消費電力の削減および処理性能の向上を目指す。		
降雪時の自動運転のための環境変化適応型の自己位置推定	米陀 佳祐 金沢大学 新学術創成研究機構助教	S 150
自動車の自動運転技術は交通事故・運転負荷の低減が期待されている。安全な自動運転には、自車位置をセンチメートル精度で推定する技術が重要である。位置推定する主な手段は、道路周辺の特徴物の地図と車載センサの観測情報のマッチングにより実現する。しかし積雪時では、地図の特徴物が遮蔽されて観測情報が欠落し、位置精度の悪化する課題がある。本研究では、ノイズの影響を考慮した観測モデルを提案し、観測情報の再構成アルゴリズムを提案することで悪天候下に頑健な位置推定手法を実現する。		
緑内障による失明率軽減にむけた視神経乳頭解析法の検討	村松 千左子 岐阜大学 大学院医学系研究科特定研究補佐員	100
緑内障は日本の中途失明原因の第一位、世界的にも第二位とされている。緑内障によって障害された視神経の再生は困難であるため、病気の早期発見により進行を遅らせることが非常に重要である。申請研究では、緑内障の早期発見に寄与するために、検診や眼科の診察で撮影された眼底画像から、緑内障の診断に有用な情報を引き出し、眼科医に提示することを目的とする。眼底画像は緑内障の診断のみでなく、他の病気の診断や記録などに日常的に撮影されるため、病気を疑わない早期の患者の発見が可能である。		
マイクロストリップ三角形共振器を用いた小型なチューナブルフィルタ	宮田 尚起 東京都立産業技術高等専門学校 ものづくり工学科准教授	100
携帯電話に代表される小型無線通信機システムが取り扱うトラフィックが近年爆発的に増加しており、より高速で大容量な無線通信を実現するために用いられるマイクロ波フィルタとして通過帯域が可変なチューナブルフィルタの実現が求められている。本研究では三角形共振器を用いたチューナブルフィルタを実現する。三角形共振器を用いることにより、フィルタとして小型かつ高耐電力な特性を有し、かつ従来技術と比較して広い中心周波数の調整範囲を有するチューナブルフィルタの実現が期待できる。		
応答曲面法を利用した種々の環境におけるロボットの最適運動方策学習	有泉 亮 名古屋大学 大学院工学研究科助教	100
強化学習による最適方策の学習は多くのデータを必要とし、実験回数が厳しく制約されるロボットへの適用は限定的である。特に、多くのロボットで要求される多目的の最適化は困難である。一方、申請者は統計的機械学習の手法を用い、少ない実測データからロボットの多目的最適化を達成する方法を提案してきた。しかし、ある環境で獲得された方策が他の環境でも有用とは限らず、種々の環境で個別に最適化が必要であった。本研究ではこの研究を発展させ、最適方策集合の推定を環境変数の関数として求める手法を提案する。		
生体内温度分布の非侵襲高精度計測実現のための治療支援ロボットの開発	井関 祐也 八戸工業高等専門学校 産業システム工学科助教	100
ハイパーサーミアは、癌細胞の熱感受性が正常細胞よりも高く、 43 ± 0.5 で一定時間加温されると死滅する臨床事実に基づいている。この治療法は、癌加温中の生体内の温度分布を如何にして正確に把握できるかにその是非が掛かっている。申請者は、超音波画像を応用した生体内温度計測手法を提案しているが、臨床応用に際して、再現性のある超音波プローブの接触が容易ではなく、これが課題となっている。このような背景から、本研究課題では、再現性のある超音波画像を撮像するための治療支援ロボットの開発を目的とする。		
ナノワイヤ異種集積技術に基づくGe/III-V ハイブリッド電子デバイスの創成	富岡 克広 北海道大学 大学院情報科学研究科准教授	100
次世代エレクトロニクス、とりわけ集積回路の最大の課題は、消費電力を削減しながらチップ性能を高性能化することである。本研究は、申請者がこれまで確立してきた半導体結晶成長技術を基軸として、次世代電子デバイス・光デバイス材料として期待されるIII-V族化合物半導体とGeを融合し、これらの材料からなるハイブリッド型構造の電気・光物性、結晶構造の評価を通して、結晶成長学的に未踏であったIII-V族とGeからなる半導体デバイス応用の可能性・多様性を切り拓く。		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【化学系材料】		
凝集誘起発光を利用したフルカラー発光ナノ粒子の開発	中林 千浩 山形大学 大学院有機材料システム研究科助教	100
従来の発光性材料は、固体状態で発光性が著しく低下することが問題あり、固体状態でも高輝度に発光する材料創出が切望されている。本研究では、両親媒性ブロック共重合体の自己組織化を活用し、凝集によって発光性を示す凝集誘起発光構造をコアに固定化することで、固体状態で高輝度発光するコア-シェル型ナノ粒子群の合成法を確立する。さらに、様々な発光色に対応する凝集誘起発光性構造を固定化し、フルカラー発光性ナノ粒子群のライブラリ創製および高効率フルカラー発光デバイスへの応用を目指す。		
新規伝熱性セルロースナノ繊維を用いた排熱基板材料の創出	上谷 幸治郎 立教大学 理学部助教	100
バイオマス資源から抽出したセルロースナノ繊維の集積体が、高い熱伝導率を持つことを発見した。本研究では、セルロースを用いて新規な熱伝導性電子基板材料を開発する。特に、セルロースナノ繊維の持つ特徴的な伝熱性能を最大限に発揮させることで、電子基板の排熱性能を大きく向上させる新規な材料を提案する。これにより、従来のヒートシンクなど嵩高い放熱部材を必要としない次世代電子デバイスの開発を可能にし、デバイスの小型化と環境性能の両立を図る。		
金 - チタニア系プラズモニック光触媒における酸化還元サイトの可視化と反応メカニズムの解明	河村 剛 豊橋技術科学大学 大学院工学研究科助教	100
プラズモニック光触媒は、太陽光に含まれる全ての光を利用できると考えられているが、現状ではその量子収率は数%に留まっている。これは、プラズモニック光触媒における反応メカニズムが明確になっていないことが最大の原因である。本研究では、この反応メカニズムを解明するために、これまでにほとんど例のない、走査型透過電子顕微鏡像と組成マッピングによる光触媒反応サイトの可視化を実施する。この手法は、他の光触媒の反応メカニズム解明にも適用できるため、関連研究分野へのインパクトも大きい。		
分子凝集誘起発光に立脚した高輝度発光材料の開発と光増感剤への応用	萩森 政頼 長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科(薬学系)准教授	100
機能性色素は、工学や医療において欠くことのできない材料である。しかしながら、高濃度になると分子同士が凝集し、発色性、発光効率、光感受性や光増感性が著しく低下するため、新規メカニズムに基づく材料開発が急務となっている。本研究では、高濃度状態や固体状態において発光を示す分子凝集誘起発光現象に着目し、低分子化合物の分子骨格変換や官能基導入により分子凝集誘起発光性の材料を開発することにした。特に、開発が望まれている太陽電池や光線力学療法への応用可能な高輝度発光材料の開発を目指す。		
遠紫外分光法によるイオン液体の電極界面における電子状態研究	田邊 一郎 大阪大学 大学院基礎工学研究科助教	S 150
電気化学環境下における電極界面でのイオン液体(アニオンとカチオン)の挙動と電子状態を明らかにすることを目的とする。独自に開発した減衰全反射型遠紫外分光装置と理論計算を基にベースに、電気化学環境下における測定を可能にするセットアップを構築し、物質の電子状態を直接反映する遠紫外から紫外域(波長150-300 nm)における電圧印加下での電極界面の吸収スペクトル測定を実現する。電圧印加によるイオンの構造と電子状態変化の解析には、分子動力学計算と量子化学計算による検討を行う。		
バイオマス変換反応の開拓に向けた酵素機能を模倣した固体表面反応場の創製	山口 渉 東京工業大学 物質理工学院助教	100
本研究では、「バイオマス変換反応の開拓に向けた酵素機能を模倣した固体表面反応場の創製」と題し、単一の糖を原料に多様な有用化合物を与える新たな方法論の開発を目指す。具体的には、炭素数3の単糖である1,3-ジヒドロキシアセトンを利用し、炭素-炭素結合形成反応を鍵とする5員環ラクトン-ラクタム骨格からなる類縁体を標的とした効率的合成法を確立する。反応を高選択的に進行させるために、酵素の作用機序に着想を得た独創的な触媒設計に基づき、Lewis酸点とBrønsted塩基点から構成される固体表面反応場を構築する		
液相プロセスを活用した酸窒化物光触媒の新規合成法の開拓	片桐 清文 広島大学 大学院工学研究院准教授	100
水素を化石燃料を用いずに産出する方法として光触媒による水分解に関する研究が世界的に行われている。その中でも可視光に反応する光触媒として酸窒化物が大きな可能性を秘めていることが明らかになっている。しかし、その合成法は特殊な装置を要するなど、改善すべき点も多い。ここでは、酸窒化物光触媒のより安全で簡便な合成法として液相プロセスを活用した手法を開発することを目指す。特に前駆体の調製や窒素源の選定など、従来十分に検討されてこなかった点にスポットをあてる。		
pH応答性希土類錯体フィルムにおける発光色の電場制御とプロトン伝導に関する研究	亀淵 萌 東京理科大学 理学部第一部助教	100
外部刺激によって発光色の制御が可能な透明蛍光体は新しい省エネ材料として有望である。このような社会的要請に応えるための基礎研究として本研究では、pHに反応して発光色が変化する希土類錯体(beta-ジケトナド)ランタノイド2核錯体を基盤物質として、これらをプロトン伝導膜であるナフィオン(Nafion)に担持させることでプロトン応答性の透明発光フィルムを開発する。このフィルムに電圧を印加することでプロトン伝導を誘起し、発光色の制御を試みる。		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
外部刺激により接着力をオン-オフ可能な易解体性接着材料の開発	佐藤 絵理子 大阪市立大学 大学院工学研究科講師	100
<p>本課題は、反応性アクリル系ポリマー精密合成、および外部刺激により接着力のスイッチングが可能な易解体性接着材料への応用を目的とする。易解体性接着材料は、使用時の十分な接着強度とオンデマンドな接着強度の低下の両立が可能な材料であり、異種材料の分別回収や不良部品の交換、製品の小型化や生産性向上を目的とした製造工程の仮接着用途での需要が高い。易解体性接着材料に接着力の回復機能を付与することにより、磁石のように接着と解体が自在に可能な新たな機能性接着材料の創生が期待される。</p>		
環状骨格ポリマーの精密合成と自己組織化による革新的機能空孔材料の創出	寺島 崇矢 京都大学 大学院工学研究科助教	100
<p>本研究では、環状骨格ポリマーを「環状空孔が多数配列・集積化した機能性高分子」と捉え、この自己組織化を鍵として、革新的な機能性高分子材料を創出する。まず、分子量や立体構造・連鎖配列が精密制御された環状骨格ポリマーを合成し、このポリマーを自己組織化して環状空孔が精密に積層化した高分子材料を構築する。さらに、この積層化空孔材料を利用して、高選択的なイオン認識能を示すイオンチャンネル材料や高効率・高性能な高分子電解質、高選択的なガス分離・吸蔵を実現する高分子材料を開発する。</p>		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【物理系材料】		
革新的な電界駆動型磁気デバイスの創製に向けた高機能強磁性・強誘電薄膜材料の探索・合成	吉村 哲 秋田大学 大学院理工学研究科准教授	S 150
本研究では、室温で強磁性かつ強誘電性を示す単相の薄膜材料を用いて電界印加のみにより完全に磁化方向を反転させる、申請者が実証に成功した現象を適用した、超大容量・超低消費電力・貴金属フリーの磁気メモリや超低消費電力・高解像度・希土類元素フリーの光変調素子などの新規かつ革新的な次々世代磁気デバイスを世界にさきがけて実現するため、それぞれのデバイスに適した物性を有する高機能な強磁性かつ強誘電薄膜を探索および合成することを目的としている。		
ナノロッド構造を持った有機系太陽電池の圧着による超低コスト作製技術の創出	當摩 哲也 金沢大学 新学術創成研究機構准教授	100
有機薄膜太陽電池は、大型の真空製膜装置を用いずに印刷のような塗布法を使えるため、低コスト・省エネルギー・低環境負荷の未来のエレクトロニクス製品になると期待されている。本研究では、ナノテンプレート膜と半導体ポリマー/金属膜を転写により張り合わせることで、劇的に低コストな太陽電池を製造することを目標とする。創エネルギー装置を“省エネルギー”で製造することで本当に地球にやさしい夢の太陽電池(有機系太陽電池)を誕生させることを最終目的としている。		
有機金属分解法により作製した磁性ガーネット薄膜による巨大磁気表面プラズモン効果の発現	芦澤 好人 日本大学 理工学部准教授	100
本申請研究では、有機金属分解法により大きな磁気光学効果を示す磁性ガーネット薄膜を作製することにより、巨大な磁気表面プラズモン効果の発現をはかり、磁気表面プラズモン効果による磁気センサ応用を目指す。磁気表面プラズモン効果は、磁性体の磁化方向に依存した誘電率変化により、表面プラズモンの励起条件が変化して反射率が変化する現象である。申請者はAu/スピネルフェライト薄膜において磁気表面プラズモン効果を見出し、より大きな効果の期待できる磁気光学効果の大きい透光性誘電磁性体を検討する。		
多元系遷移金属硫化物からなるナノバルク熱電材料の創製	前之園 信也 北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科教授	100
熱電素子によるエネルギーハーベスティングの実現を目指し、従来の熱電材料には必須であった希少金属や毒性元素を含まないサステナブル熱電材料を創製することを目的とする。遷移金属硫化物系熱電材料は有望な候補ではあるものの、熱電変換効率が低いことが最大の課題である。本研究では、遷移金属硫化物ナノ粒子を化学合成し、放電プラズマ焼結法によってナノバルク熱電材料とすることで、遷移金属硫化物系熱電材料の熱電変換効率の向上を図る。		
中性子線イメージングを目的としたラジオフォトルミネッセンス材料の開発	岡田 豪 奈良先端科学技術大学院大学 助教	100
中性子線計測は国境セキュリティ、医療および産業界において幅広く利用される技術であるが、検出器に用いられるHe-3の近年における価格高騰に伴い代替検出材料の探索が必要とされている。本研究では、中性子線に感度を持つラジオフォトルミネッセンス(RPL)材料を開発し、それを用いた中性子イメージングへの応用検討を目的とする。ここでRPLとは放射線誘起現象のひとつであり、蛍光顕微鏡による読み出しと併せる事により高解像度によるラジオグラフィが可能である事が従来のX線イメージングにより実証されている。中性子線用新規RPL材料を開発する事により、X線同様に高い空間分解能による中性子線イメージングを実現させる。		
新規スラグフローテーション法によるアルミニウムスクラップの高清浄化とアップグレードリサイクルプロセスの開発	新井 宏忠 八戸工業高等専門学校 准教授	100
近年、自動車の燃費改善のための車体軽量化に関する技術開発が国内外で急速に進展しており、自動車車体の軽量化が求められている。アルミニウムは自動車軽量部材の有力候補であり国内外で部材開発が積極的に進められているが、社会的普及には高機能化に加えて革新的な低コスト化が必要である。そこで本研究では、ヘテロ凝集現象を利用した「スラグフローテーション」なる新物理精錬法によるアルミニウムスクラップのアップグレードリサイクル手法・プロセス開発を目指す。		
資源性と安全性に優れたFe ₂ VAl熱電材料の高効率化に向けた基礎研究	木村 耕治 名古屋工業大学 大学院工学研究科助教	100
熱電発電は、材料の両端に与えた温度差により生じる起電力を利用して廃熱を電気エネルギーに変換する技術である。その高効率化を目指した材料探索がなされているが、実用材料は毒性、希少元素を含むため広く普及していない。Fe ₂ VAl熱電材料は、資源性及び安全性に優れた汎用な材料として期待されている。しかし、熱伝導率が高く効果的に温度差を保つことができないことが課題である。本研究では、熱伝導低減に寄与する第四元素ドーパの効果を最先端の放射光技術によって原子レベルで解明する。		
触媒スクラップ中の白金族金属を効率的に分離回収する新技術の開発	谷ノ内 勇樹 東京大学 生産技術研究所助教	100
白金族金属(PGM)に分類される白金、パラジウム、ロジウムは、自動車の排ガス浄化触媒に不可欠なレアメタルであり、資源の安定確保や地球環境の保全のためリサイクル技術の高度化が重要な課題となっている。回収対象であるPGMは、スクラップ中の微量成分であるとともに、水溶液中への溶解・抽出が難しい元素である。そこで本研究では、無電解めっき法を利用してPGMを選択的に鉄合金化する新しい手法を応用し、触媒スクラップ中のPGMを、磁力によって濃縮分離するとともに、酸に溶解しやすくする環境調和型技術を開発する。		
合計	33件	2016

第32回(2016年度)マツダ研究助成奨励賞候補一覧 - 科学技術振興関係 -

マツダ研究助成選考委員奨励賞は、マツダ財団設立30周年を記念して2014年度より新設されました。科学技術振興関係の助成対象の中から、若手研究者を主たる対象とし、選考委員会が特に優れた研究であるとみなした4件の研究に対して授与されるもので、副賞として研究助成金50万円が追加助成されます。

(註)研究代表者役職は応募時

分野	研究題目および選考理由	研究代表者
機械	キンク変形を応用した炭素繊維強化積層構造体の曲げモーメント織込型プレストレス構造設計に関する研究	雷 霄雯 福井大学 学術研究院工学系部門講師
<p>本研究は、CFRP積層構造体の板要素および構成するファイバーに外力を負荷した時に生じるキンク変形を積極的に利用して、残留応力分布の一般化力に相当する曲げモーメントを構造の中に織り込んだ「力学構造を連成した機能構造設計」の学術的指針を提案するものである。これによって、異方性の制御などアクティブ機能性複合材料の開発に大きく貢献でき、その先進性と実用性にも優れている研究内容に対して、奨励賞を贈呈する。</p>		
電子・情報	降雪時の自動運転のための環境変化適応型の自己位置推定	米陀 佳祐 金沢大学 新学術創成研究機構助教
<p>本研究は、積雪時の自動運転の課題である自転車位置推定の精度について、ノイズの影響を考慮した観測モデルと観測情報の再構成アルゴリズムにより、悪天候下でも頑健な位置推定手法を提案するものである。これによって、地図の特徴物が遮蔽される積雪時などにおける自動運転技術が大幅に向上することが期待でき、その革新的な高い技術内容に対して、奨励賞を贈呈する。</p>		
化学系材料	遠紫外分光法によるイオン液体の電極界面における電子状態研究	田邊 一郎 大阪大学 大学院基礎工学研究科助教
<p>本研究は、電極界面でのイオン液体(アニオンとカチオン)の挙動と電子状態を明らかにするため、独自に開発した減衰全反射型遠紫外分光装置と理論計算を基に、物質の電子状態を直接反映する遠紫外から紫外域(波長150-300 nm)における電圧印加下での電極界面の吸収スペクトル測定を実現するものである。独創性、先進性に優れた研究計画が提案されており、大きな成果が期待でき、その高い技術内容に対して奨励賞を贈呈する。</p>		
物理系材料	革新的な電界駆動型磁気デバイスの創製に向けた高機能強磁性・強誘電薄膜材料の探索・合成	吉村 哲 秋田大学 大学院理工学研究科准教授
<p>本研究は、室温で強磁性かつ強誘電性を示す単相の薄膜材料を用いて電界印加のみにより完全に磁化方向を反転させることができる超大容量・超低消費電力の革新的な「次々世代磁気デバイス」を世界にさきがけて実現することを提案するものである。この革新的な電界駆動方式は、これまでの電流磁界の印加や流行の偏極スピンの注入とは全く異なる方式であり、その先進性と実用性にも優れている研究内容に対して、奨励賞を贈呈する。</p>		

- 2 . 事業助成

1 . 募集・応募・選出状況

第32回(2016年度)は、以下により実施しました。

(1) 募集

次の内容で募集を行いました。

(a) 助成趣旨

学会・研究機関等が中国地方で開催する小中高の生徒を対象とした「科学体験」に関する研究会等で、科学技術振興に有意義と認められるものに対し、その費用の一部もしくは全額を助成します。

(b) 助成対象

中国地方の大学(含、附属研究機関)、高等専門学校に所属(常勤)し、申請事業の開催責任者または出版物の主なる著者によって、2016年6月から2017年5月に実施される

- ・ 研究者による「科学体験」事業の開催
- ・ 学会・シンポジウム等の「科学体験」推進に関する研究会の開催
- ・ 「科学体験」に関する研究成果出版物の刊行、教材等の試作
- ・ その他、「科学体験」に関し財団が有意義と認めるもの

(c) 募集方法

公募

(d) 対象地域

中国地方

(e) 助成金総額

200万円

(f) 助成件数

10～15件

(g) 1件当たり助成金額

10～20万円

(h) 助成期間

2016年6月から2017年5月

(i) 募集期間

2016年4月1日～5月9日

(2) 応募状況

本年度は、31件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別

- | | | | |
|------|----|------|----|
| ・鳥取県 | 0件 | ・広島県 | 8件 |
| ・島根県 | 9件 | ・山口県 | 9件 |
| ・岡山県 | 5件 | | |

(b) 分野別

- | | |
|---------------------|-----|
| (1) 体験事業の開催 | 27件 |
| (2) 研究会等の開催 | 4件 |
| (3) 成果出版物の発刊・教材等の試作 | 0件 |
| (4) その他 | 0件 |

(c) 若手研究者(40才以下)

9件(29%)

(3) 助成対象者の選出

マツダ事業助成 - 科学技術振興関係 - 選考委員会(5月23日)において慎重に審査された結果、助成候補として15件が選出され、第25回理事会(5月30日開催)において報告されました。

2. 助成件数の推移

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	本年度(第32回) 2016年度	第31回 2015年度	第30回 2014年度
応募件数 (件)	31	29	30
助成件数 (件)	15	15	15
助成比率 (%)	48	52	50
助成金総額 (万円)	200	200	200

(地域別状況)

地 域	2016年度		2015年度		2014年度	
	件数	助成件数	件数	助成件数	件数	助成件数
鳥 取 県 (件)	0	0	0	0	1	1
島 根 県 (件)	9	4	11	2	11	2
岡 山 県 (件)	5	3	3	2	3	1
広 島 県 (件)	8	5	8	7	8	7
山 口 県 (件)	9	3	7	4	7	4
合 計 (件)	31	15	29	15	30	15

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数)

(分野別状況)

分 野	2016年度		2015年度		2014年度	
	件数	助成件数	件数	助成件数	件数	助成件数
(1)体験事業の開催 (件)	27	14	27	15	29	15
(2)研究会等の開催 (件)	4	1	0	0	0	0
(3)成果出版物の発刊 ・教材等の試作 (件)	0	0	1	0	0	0
(4) その他 (件)	0	0	1	0	1	0
合 計 (件)	31	15	29	15	30	15

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数)

3. 第32回(2016年度)マツダ事業助成一覧 - 科学技術振興関係 -

事業名 ([]内は小・中・高生の参加者数)	開催地	事業責任者 (役職は応募時)	実施期間	助成金額 (万円)
地域発・課題探求型授業「インキュベーションワーク」と連携したサイエンスショーと科学・工作教室 参加者(総人数)39名 [内、20名] 講演:	呉工業高等専門学校 (呉市)	山脇 正雄 呉工業高等専門学校協働研究センター長	2016/5/28 ~ 2016/12/17	15
電子回路技術を用いた小学生出前授業 ~ LED点滅器および電子オルゴールの作製 ~ 参加者(総人数)12名 [内、10名]	津山市立一宮小学校(岡山県津山)	西尾 公裕 津山工業高等専門学校准教授	2016/8/1 ~ 2016/8/31	15
動物の生殖器官と内分泌 ~触って見よう・調べてみよう(岡山大学公開講座2016) 参加者(総人数)18名 [内、16名]	岡山大学 (岡山市)	門田 充司 岡山大学農学部教授/農学部長	2016/8/20 ~ 2016/8/21	12
瀬戸内海のプランクトン観察と海の観測による環境学習 参加者(総人数)20名 [内、18名]	三原市、大崎上島町	芝田 浩 広島商船高等専門学校准教授	2016/8/18 ~ 2016/10/30	15
おもしろワクワク化学の世界 '16広島化学展 参加者(総人数)647名 [内、400名]	広島市こども文化科学館	大下 浄治 広島大学大学院工学研究院教授	2016/7/16 ~ 2016/7/18	15
水の中で飛ぶ! ~泳ぐマントレイロボットに挑戦~ 参加者(総人数)200名 [内、140名] 講演:	松江工業高等専門学校	アシュラフ アラム 松江工業高等専門学校准教授	2016/7/1 ~ 2016/12/31	10
小学生のためのロボット工作 ~作ったロボットで対戦! ~ 参加者(総人数)20名 [内、10名]	松江工業高等専門学校	箕田 充志 松江工業高等専門学校教授	2016/7/1 ~ 2016/8/31	15
サイエンス・ピクニック~小学生のためのはじめてがいっぱい 参加者(総人数)28名 [内、28名] 講演:4	徳山工業高等専門学校 (周南市)	奥本 幸 徳山工業高等専門学校教授	2016/8/3 ~ 2016/8/3	10
山口大学理学部サイエンスワールド2016 参加者(総人数)800名 [内、400名] 講演:11	山口大学 吉田キャンパス(山口市)	幡谷 泰史 山口大学大学院 創成科学研究科准教授	2016/11/6 ~ 2016/11/6	15
「プラスチックに変身する謎の液体」おかやまりサーチパークおもしろ体験でえー2016 参加者(総人数)57名 [内、7名]	テクノサポート岡山(岡山市)	押木 俊之 岡山大学大学院自然科学研究科講師	2016/7/22 ~ 2016/7/23	10
踏切を作ろう - マイコンによるセンサー、音、光、モーターの制御 - 参加者(総人数)800名 [内、800名]	徳山工業高等専門学校 (周南市)	河村 麻子 徳山工業高等専門学校技術職員	2016/8/23 ~ 2016/8/23	13
電子工作で分かる身近なセンサの不思議 - 距離を計るには - 参加者(総人数)5309名 [内、随時工作 2569名]	松江工業高等専門学校	福島 志斗 松江工業高等専門学校技術専門職員	2016/7/1 ~ 2016/12/31	12
広島ジュニアサイエンスフェア 参加者(総人数)1034名 [内、600名] 発表:	広島市中区袋町6-36 まちづくり市民交流プラザ	くや みつお 広島干潟生物研究会事務局長	2016/12/23 ~ 2016/12/23	13
科学実験で地域を繋ぐ。保護者、学校、そして子どもたちが創る輪~家族ぐるみで研究員~ 参加者(総人数)110名 [内、55名]	三次市生涯学習センター	寺重 隆視 特定非営利活動法人三次科学技術専務理事	2016/6/11 ~ 2017/5/31	15
「科学発信!! Shimane」 参加者(総人数)84名 [内、42名]	島根大学 (松江市)	半田 真 島根大学/日本コンピュータ化学大学院 総合理工学研究科教授	2016/10/22 ~ 2016/10/22	15
合計		15件		200万円

- 3 . 科学わくわくプロジェクト

(1) 内容

「科学わくわくプロジェクト」は、マツダ財団と広島大学等が連携して青少年の健全育成と科学技術の振興を目指して実施する事業です。次の時代を担う小学生・中学生・高校生に、考えること、学ぶことにわくわくする体験、正解のない問題に取組みブラックボックスをこじ開けてみる体験といった機会を継続的に提供することにより、科学する心を育てることを目的としています。

「科学わくわくプロジェクト」は、次の特徴を有しています。

- ・現場の教員の議論により生まれたプロジェクトである。
- ・財団と大学の連携事業である。
- ・多様な事業で構成される複合的な事業である。
- ・教育効果の評価を通じて学校教育への波及効果も期待される。

(2) 連携先

科学わくわくプロジェクト実行委員会

委員長：比治山大学現代文化学部 林 武広 教授

(3) 主要事業

サイエンスレクチャー（中高生を対象とした出張・出前型講座；要請により可能な範囲で社会人等も対象とする）

第1回：2016年12月17日（広島大学附属福山中・高等学校 2・3学年 50名）

- ・講師：広島大学宇宙科学センター 大杉 節 特任教授
- ・テーマ：「放射能・放射線」

第2回：2016年12月13日（崇徳中学校1学年 55名）

- ・講師：マツダ（株）技術研究所 研究員
- ・テーマ：「自動車の仕組み」

第3回：2017年2月22日（崇徳高等学校2学年 100名）

- ・講師：広島大学宇宙科学センター 大杉 節 特任教授
- ・テーマ：「放射能・放射線」

ジュニア科学塾（理科好きの中学生対象の科学する心を育む集中講義）

～年間テーマ「見えない事物や現象を科学する - 不可視から可視へ - 」

第1回：2016年10月16日 9：00～13：00 開催（比治山大学6号館）

- ・講師：比治山大学 石井 真治 教授
- ・テーマ：「脳の働き」（心理分野）、中学生対象（9名）

第2回：2016年11月6日 9：00～13：00 開催（比治山大学6号館）

- ・講師：広島大学大学院 岩崎 秀樹 名誉教授
- ・テーマ：「数学における可視化」（数学分野）、中学生対象（11名）

第3回：2016年11月27日 9：00～13：00 開催（広島大学東千田キャンパス）

- ・講師：広島大学大学院教育学研究科 網本 貴一 准教授
- ・テーマ：「化学における可視化 - 分子や原子のモデル - 」（化学分野）、中学生対象（14名）

第4回：2016年12月11日 9：00～13：00 開催（広島大学大学院教育学研究科）

- ・講師：広島大学大学院教育学研究科 梅田 貴士 准教授
- ・テーマ：「物理における可視化 - 物体の動きを可視化してみよう - 」（物理分野）、

中学生対象（11名）

第5回：2016年12月26日 9：00～12：00 開催（マツダ（株）技術研究所）

- ・講師：マツダ（株）技術研究所 研究員
- ・テーマ：「自動車に関わる現象の可視化」（マツダ）、中学生対象（13名）

小学校理科ひろば（小学校理科授業支援のための小学生への出前示範授業）

- ・講師：比治山大学現代文化学部 林 武広 教授 他
- ・テーマ：授業実践講座または模擬授業
- ・内容：（5年生）「天気の変化」「流水の働き」「ものの溶け方」
（6年生）「月と太陽」「地震と防災」
- ・今年度実施：広島市内・広島県内の小学校 25校72学級（対象児童数2,100名）
広島市教育委員会と連携する（実施校は、広島市教育委員会が希望校を募り、
その後の調整と協議によって選定する）。
学校から依頼があれば、可能な範囲でそれに応じる。

(4) 実施額 50万円

青少年健全育成に関する活動の概要

- 1. 研究助成

1. 募集・応募・選出状況

第32回(2016年度)は、以下により実施しました。

(1) 募集

次の内容で募集を行いました。

(a) 助成趣旨

工業化社会、情報化社会の著しい進展による社会環境の変化は、国民の社会生活に多様な影響を及ぼしています。中でも青少年の健全な心身の発達を阻む面のあることを認めざるをえません。今日生涯の各段階において、人間形成上あるいは社会生活上、絶えず自ら学習することの必要が叫ばれ、そのための学習基盤の整備充実を進めることが求められておりますが、中でも青少年段階におけるそれは重要であると考えます。こうした青少年の健全な育成、あるいは青少年期における自らの学習への支援を通して、心豊かに生きることの出来る社会の実現を願い、そのためのすぐれた研究に対し、その一助として費用の一部もしくは全部を助成します。

(b) 助成対象

本財団の設立趣旨である「青少年の健全育成」に係る市民活動の活性化に役立つ実践的な研究を対象とします。

対象研究分野： 青少年をとりまく環境 コミュニティづくり ボランティア育成 科学体験
前各号に類する分野

(c) 募集方法	公募
(d) 助成金総額	500万円
(e) 助成件数	5～6件
(f) 助成期間	1年または2年
(g) 募集期間	2016年4月18日～6月30日

(2) 応募状況

締め切りまでに39件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別	・中部以東	20件(51%)
	・関西以西	19件(49%)
(b) 分野別	・青少年をとりまく環境	21件(54%)
	・コミュニティづくり	5件(13%)
	・ボランティア育成	5件(13%)
	・科学体験	3件(7%)
	・前各号に類する分野	5件(13%)

(3) 助成対象の選出

選考委員会(7月26日)において慎重審議の結果、助成候補として7件が選出され、第27回理事会において正式に承認決定されました。

(4) 助成金贈呈書の贈呈

2016年10月から11月にかけて申請代表者を訪問し、贈呈書を贈りました。

2. 助成件数の推移

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	本年度(第32回) 2016年度	第31回 2015年度	第30回 2014年度
応募件数 (件)	39	27	36
助成件数 (件)	7	6	5
助成比率 (%)	18	22	14
助成金総額 (万円)	500	500	400

(地域別状況)

地 域	2016年度		2015年度		2014年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
中部以東 (件)	20	3	13	5	15	2
近畿 (件)	5	1	4	0	6	1
中国・四国 (件)	7	2	7	1	11	1
九州・沖縄 (件)	7	1	3	0	4	1
合計 (件)	39	7	27	6	36	5

(左側数字:応募件数,右側数字:助成件数)

(分野別状況)

分 野	2016年度		2015年度		2014年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
青少年をとりまく環境 (件)	21	3	21	4	21	3
コミュニティづくり (件)	5	2	0	0	2	1
ボランティア育成 (件)	5	1	0	0	2	0
科学体験 (件)	3	0	3	1	6	0
前各号に類する分野 (件)	5	1	3	1	5	1
合計 (件)	39	7	27	6	36	5

(左側数字:応募件数、右側数字:助成件数、分類は審査時)

3. 第32回(2016年度) マツダ研究助成一覧 - 青少年健全育成関係 -

助成対象研究の概要は、以下のとおりです。

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額(万円)
<p>小中学生がこころの不調に適切に対処するためのメンタルヘルス・リテラシー</p> <p>地域住民の精神障害への理解はまだ十分に進んでおらず、依然としてスティグマや偏見は根強く残っており、精神障害者の地域移行を妨げる要因となっている。本研究では、小中学校年代の子どもたちがメンタルヘルス疾患についての教育を受けることにより、子ども時代から精神障害に対して正しく理解し、子どもたち自身のメンタルヘルスにおいても適切な予防行動や援助要請行動をとることができるようになることを目標とし、子ども年代を対象とした有用なメンタルヘルス教育のプログラム構成について明らかにすることを目的に実施する。</p>	<p>井上 幸子 岡山県立大学保健福祉学部准教授</p>	70
<p>学校と地域の連携・協働に係る「地域コーディネーター」養成プログラムの開発</p> <p>社会状況の変化に伴い、地域社会のつながりや支えあいの希薄化等による地域社会の教育力の低下が指摘されている。次代を担う子供たちの成長を促す学校教育は、地域住民や保護者との関わりが基盤となって充実したものとなる。本研究では、小学校区において学校と地域との連携・協働の核となる人材である「地域コーディネーター」に焦点を当て、事例による分析によりその資質・能力と果たす役割について、考察する。また、「地域学校協働活動」の推進地域を事例分析し、学校における教育活動との関係性と課題を明らかにする。</p>	<p>野村 一夫 香川大学大学院教育学研究科特任教授</p>	75
<p>子どもの表現する力、協力・協働する力を促進するための教育プログラムの実施と評価および学校教育への導入の提案 - 創作演劇に着目して</p> <p>本研究では、協同的な芸術的表現活動である創作演劇への取り組みが、子どもの「表現する力」や「多様な価値観を持つ人々と協力、協働する力」に及ぼす影響を解明し、教科横断的な活動に関するエビデンスの蓄積と教育政策的提言を目指す。具体的には、小学3年生から6年生の音楽劇の創作を追跡調査し、活動の進展に伴う、「表現する力」や「多様な価値観を持つ人々と協力、協働する力」に関する認知・技能、情意、自己面の発達の变化を検討する。また、検討結果に基づき、学校現場に導入可能な指導計画を作成する。</p>	<p>中山 留美子 奈良教育大学教育学部准教授</p>	60
<p>年齢期の児童生徒に対する認知症疾患教育の取り組み 認知症子ども力プロジェクト</p> <p>我が国の認知症人口は2025年には700万人にのぼると予測されており、将来認知症になっても安心して暮らせる地域コミュニティの生成は国全体の課題と言える。高齢者の多くは子ども達に対して寛容であることを受け、千葉県認知症疾患医療センターでは2013年度より「認知症子ども力プロジェクト」に取り組んでいる。子ども達への認知症教育活動は、認知症の人の早期発見や行動心理症状の予防だけでなく、病気や障害を知ることで他者への寛容を学び、いじめの減少につながるなど、副次的な効果も期待される。</p>	<p>平野 成樹 千葉大学大学院医学研究院講師</p>	75
<p>青少年のオンラインプライバシー保護に関する研究</p> <p>本研究は、アメリカの児童オンライン・プライバシー保護法を手掛かりとして、「親と子ども」、「学校と子ども」、そして「事業者と子ども」という多角的な観点から日本における青少年のオンライン・プライバシー保護に関する法制度の課題と対策を明らかにすることを目的とする。アメリカでは、すでにモバイルアプリやSNSをめぐる青少年のインターネットトラブルの事例が公表されており、いわゆるリベンジポルノ対策やいじめ問題などに児童の投稿を削除できる州法や位置情報の不正取得に対する制裁金など青少年のインターネット利用の安全な環境づくりが進められている。日本では、有害情報へのアクセスを遮断する青少年保護法しか存在していないため、日米の青少年のインターネット利用に関する法制度の異同を明らかにし、わが国における青少年のインターネット利用の法制度の在り方を提案する。</p>	<p>宮下 紘 中央大学総合政策学部准教授</p>	80
<p>青少年のノンアルコール飲料摂取と飲酒行動に関する縦断調査研究</p> <p>本研究では、酒類の代替飲料として開発され、ここ数年で市場規模が急速に拡大したノンアルコール飲料に着目し、青少年を対象とした縦断調査によってノンアルコール飲料の摂取と飲酒行動との関連およびその出現順序について検証する。また、青少年を対象とした飲酒防止のための効果的な教育プログラムの開発や家庭環境、社会環境の整備に向けた具体的な示唆を得るために、ノンアルコール飲料の摂取と飲酒行動との関連性やその出現順序に影響を及ぼす心理社会的要因、環境要因等についても検討を行う。</p>	<p>久保 元芳 宇都宮大学教育学部講師</p>	70
<p>発達障害を有する児童生徒に対する家庭学習支援における効果的な支援方法の開発</p> <p>近年、学習障害や注意欠陥多動性障害などの発達障害についてよく知られてきた。知的機能は低くないが生活に困難があることが多く、そのため普通学級に在籍しながら個別の指導が受けられる通級指導教室に通う児童が増えている。子どもの健全な成長発達を支援するためには、子ども個人の現状や特性をよく理解し、その特性に応じた指導、教育支援をアセスメントしていく必要がある。本研究では、発達障害児童の困難さと深くかかわる実行機能について、より包括的にアセスメントできる評価プログラムを開発する。</p>	<p>山口 雄介 特定非営利活動法人九州大学 こころとそだちの相談室心理臨床部長</p>	70
合 計	7 件	500 万円

- 2 . 市民活動支援

1 . 募集・応募・選出状況

第32回(2016年度)青少年健全育成市民活動支援を以下により実施しました。

(1) 募集

募集要項記載概要は、以下のとおりです。

(a) 対象活動	青少年の健全育成を目的とした、民間の非営利活動 自然とのふれあい ボランティア育成 地域連帯 エコ 国際交流・協力 科学体験・ものづくり
(b) 募集地域	広島県、山口県
(c) 支援期間	単年度支援 2016年4月1日～2017年3月31日の1年間
(d) 支援金総額	875万円
(e) 1件当り支援金額	10万円～50万円
(f) 募集期間	2015年10月15日～2016年1月13日

(2) 応募状況

締切日までに119件の応募を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別	・広島県 47件(39%) ・広島市 44件(37%) ・山口県 28件(24%)
(b) 分野別	・自然とのふれあい 22件(18%) ・ボランティア育成 13件(11%) ・地域連帯 57件(48%) ・エコ 7件(6%) ・国際交流・協力 11件(9%) ・科学体験・ものづくり 9件(8%)

(3) 支援対象の選出

選考委員会(2016年2月15日、16日開催)での審議の結果、支援候補として、総計33件875万円が選出され、2016年3月16日開催の第24回理事会において正式に承認決定されました。

(4) 支援金贈呈書の贈呈

- ・広島県 2016年4月19日、マツダ株式会社本社で贈呈式・交流会を開催。広島県内の28団体に対して、支援金贈呈書を贈りました。
- ・山口県 2016年4月22日、マツダ株式会社防府工場で贈呈式・交流会を開催。山口県内の5団体に対して、支援金贈呈書を贈りました。

2. 支援件数の推移

本年度を含む3年間の支援件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および支援件数)

	本年度(第32回) 2016年度	第31回 2015年度	第30回 2014年度
応募件数 (件)	119	98	110
支援件数 (件)	33	30	39
支援比率 (%)	28	31	35
支援金総額 (万円)	875	800	1000

(地域別状況)

地域	2016年度		2015年度		2014年度	
	応募件数	支援件数	応募件数	支援件数	応募件数	支援件数
広島県 (件)	47	15	28	8	33	13
広島市 (件)	44	13	46	14	48	16
山口県 (件)	28	5	24	8	29	10
合計 (件)	119	33	98	30	110	39

(左側数字：応募件数、右側数字：支援件数)

(分野別状況)

分野	2016年度		2015年度		2014年度	
	応募件数	支援件数	応募件数	支援件数	応募件数	支援件数
自然とのふれあい (件)	22	2	15	6	22	6
ボランティア育成 (件)	13	1	14	2	13	5
地域連帯 (件)	57	25	55	16	50	21
エ コ (件)	7	1	5	3	4	1
国際交流・協力 (件)	11	1	5	1	9	2
科学体験・ものづくり (件)	9	3	4	2	12	4
合計 (件)	119	33	98	30	110	39

(左側数字：応募件数、右側数字：支援件数)

3. 第3回(2016年度)マツダ市民活動支援一覧 - 青少年健全育成関係 -

活 動 名	団 体 名	地域	金額 (万円)
志和堀ホタルまつり	ホタルまつり実行委員会 (会長 上島 寿彦)	広島県 東広島市	25
再非行と非行防止、青少年の健全育成のための活動	NPO法人食べて語ろう会 (理事長 中本 忠子)	広島市	30
防災教育を進め備えよう	防災教育を進める北小と地域の会 (校長 後藤 ひとみ)	広島県 安芸郡	25
ぼくたちの道しるべ～違っていてもいいんだよ～ 自閉症スペクトラムの子どもの得意を生かす子育て 家庭療育を進めるプロジェクト	発達障害親の会 * P E A C C H * (代表 唐内 愛)	広島市	30
地域連帯～出逢い・感動・輝きの輪をひろげよう!～	遊友クラブ (代表 井田 豊隆)	広島県 福山市	40
広島思春期問題研究会およびふれあいの会	広島思春期問題研究会 (会長 湊崎 和範)	広島市	15
限界集落の寺院と連携した現代の寺子屋復活	特定非営利活動法人みよし子育て学び支援あすなろ (理事長 黒田 明憲)	広島県 三次市	30
おかげんさんまつり	切串おかげんさんまつり実行委員会 (実行委員長 羽地 誠)	広島県 江田島市	25
地域とこどものアイデアいっぱい青空カフェ	まるごと府中実行委員会 (実行委員長 力 淑子)	広島県 安芸郡	25
子供達が竹細工づくりでおもてなし (竹杖・竹寿司巻き・篠笛等を作って、地域のお年寄りなどにプレゼント)	大道山竹炭工房 (代表 今井 邦夫)	広島県 東広島市	25
援農ボランティア事業	広島県担い手同志組合おもろい農! (会長 山平 忍)	広島県 竹原市	30
親子ユニバーサル図書館(通称:みどりの森親子図書館)	市民グループええじゃん(Asian) (代表 栗林 克行)	広島県 廿日市市	20
にじいろキャンプ2016	NPO子どものひろばヤッチャル (代表 間瀬 尹久)	広島県 東広島市	30
教えて!赤ちゃん先生～わたしもあなたも大事な命～	NPO法人ママの働き方応援隊 広島東校 (代表 高田 裕美)	広島県 安芸郡	30
親子で遊ぼう会	NPO広島発達支援の会リバナー (事務局 三浦 一輝)	広島市	25
江田島を基点としたアートと哲学による青少年育成	ELCAP(エルカップ: Etajima x Local x Culture x Art x Philosophy)(福山平成大学 教授 上村 崇)	広島県 福山市	25
子どものための音楽プロジェクト	NPO法人 心豊かな家庭環境をつくる広島21 (理事長 岸房 康行)	広島市	25
安佐北区落合東地区の小学生を対象とした大学生による学習支援	Eフロンティア (代表 室 功貴)	広島市	20
若者と本と地域を紡ぐまちかど図書館『BOOKリンク』プロジェクト	若者活動サポートセンターあおぞら (共同代表 秦野 英子・増谷 郁子)	広島市	25
昔のあそびフォーラムinふくやまプロジェクト	花ネットワーク-BINGO (会長 田邊 敏)	広島県 福山市	20
次世代リーダー育成「将来の夢を描くドリームマップ」を作ろう! in HIROSHIMA	一般社団法人 ドリームマップ普及協会 広島支部 (広島支部代表 田岡 美江)	広島市	30
田んぼの楽校	広島市シェアリングネイチャーの会 (運営委員長 住吉 和子)	広島県 廿日市市	25
レゴロボットによる科学体験サロン	HMCN(Hiroshima Motion Control Network) (メンター・アドバイザー 松本 慎平)	広島市	45
地域の誰もが集える場～ひねもすようこそ～	ひねもすようこそ (代表 池岡 洋子)	広島市	30
「ストレスフルな社会をしなやかに生きる『レジリエンスな次世代を育む』活動」	特定非営利活動法人日本タッチ・コミュニケーション協会(理事長 宇治木 敏子)	広島市	25
絵本との出会いプロジェクト	絵本たねまき塾 (代表 大平 秀雄)	広島市	25
障害児主体の畑活動	もぎもぎ ふぁーむ (代表 藤田 美津代)	広島市	30
環境守り隊 1・2・山南!～ふるさと山南の環境を守るためにわたしたちにできることは何だろう～	福山市立山南小学校「環境守り隊 1・2・山南!」(校長 小川 智津子)	広島県 福山市	25
地域で子ども達への読み聞かせ活動	読み聞かせボランティア“こころ” (代表 勝原 明美)	山口県 周南市	15
理系子ども育成応援活動	特定非営利活動法人 山口科学技術子供フォーラム (理事長 浴永 直孝)	山口県 防府市	15
こどもまちづくりプロジェクト2016 ドリームチャレンジワークス ～自然と触れ合う中で主体性の心を育む研修～	公益社団法人 防府青年会議所 (理事長 脇 幸典)	山口県 防府市	40
安田の糸あやつり人形芝居伝承事業	周南市安田の糸あやつり人形芝居保存会 (会長 片川 久美子)	山口県 周南市	30
友だち100人プロジェクト～異世代交流によるコミュニケーション能力の向上～	長門市中央公民館運営協議会 子ども部会 (会長 小林 武人)	山口県 長門市	20
合 計	33件	875万円	〔 広島県 28件 755万円 山口県 5件 120万円 〕

- 3 . 感動塾・みちくさ

感動塾・みちくさの実施概要は、次のとおりです。

(1) 内容

「感動塾・みちくさ」は、子どもたちが身近な生活の中にあるものを題材として、仲間づくりを行い、協力・創意工夫することにより、未知なる物への興味を喚起し感動する心を育むこと、合わせて科学や技術への興味、関心を高めることを目的とした事業であり、平成10年度から実施しています。

(2) 共同開催

(公財)広島市文化財団との共催。

(3) 開催場所・開催日等

広島市三滝少年自然の家

・2016年8月23日～8月25日

・テーマ：「ふしぎ 発見 感動体験 ～自然(風)とエネルギー～」

・ねらい 実験、工作などの直接体験をする。

科学の楽しさや不思議さを探求し、発見や感動を獲得する。

課題解決へ向けてのプロセスを大切に、問題解決能力を身に付ける。

異年齢集団における生活の中で、仲間との協力や、協調することの大切さを学ぶ。

・参加者：小学4～6年生 46名

広島市青少年野外活動センター

・2016年8月19日～8月21日

・テーマ：「発見！感動！～みどりいっぱい おもしろ里山探検～」

・ねらい 豊かな自然に親しむとともに、期間を通して初対面の友だちやスタッフと寝食を共にすることにより、協調性・自主性や思いやりなどを養う。

自然観察を通して、自然の事物・現象について理解を深め、自然科学分野への興味関心を喚起する。

・参加者：小学3～4年生 56名

広島市似島臨海少年自然の家

・2016年9月17日～9月19日

・テーマ：「似島に生息する海の生き物の不思議」

・ねらい 実験等を通して、科学への関心を高めるとともに、科学的な見方や考え方を養う。

似島の海を舞台に自然に親しみ、自然に対する興味を深めるとともに、自然現象を科学的に捉える。また、自然と人間との関係を考える。

集団生活において必要なコミュニケーション能力を習得する。

・参加者：小学4～6年生 55名

(4) 実施額

130万円(マツダ財団負担分)

- 4 . スタートラインプロジェクト

スタートラインプロジェクトの実施概要は、次のとおりです。

(1) 内容

「スタートラインプロジェクト」は、被虐待児等の自立を支援することを目的とした事業です。子どもシェルター「ピピオの家」（緊急避難場所）および「はばたけ荘」（自立援助ホーム）を開設・運営しているNPO法人ピピオ子どもセンターとの連携で、被虐待児等の成長や、それを支えるスタッフの能力開発、活動基盤の充実等を支援する事業を、平成25年度から実施しています。

(2) 連携先

特定非営利活動法人ピピオ子どもセンターとの連携。

(3) 主要事業

被虐待児等に対する学習支援や就職・自立の支援、また、スタッフ・ボランティアスタッフのスキルアップのために、研修への参加や養成講座の開催等に対する支援を行った。

被虐待児等の成長を支援するプログラム

・実施概要：「ピピオの家」「はばたけ荘」の入居者に対する、マナー講座、図書購入、就業活動のための費用支出、自立支援のための支出、誕生会やクリスマス会などの行事の開催などを行った。

・対象者：今年度の「ピピオの家」の入居者 5名、「はばたけ荘」の入居者 5名

スタッフの能力開発を支援するプログラム

「第7回NPO法人ピピオ子どもセンターボランティアスタッフ養成講座」

・実施概要：スタートラインプロジェクト実行委員会（ピピオ子どもセンター・マツダ財団）として、以下のとおり共催した。

2016年6月 8日 ガイダンス及びボランティア体験報告

2016年6月15日 居場所のない子どもたちとの関わり方

2016年6月22日 シェルターに関わる法制度（民法，児童福祉法，など）

2016年6月29日 子どもとの関係づくりについて

2016年7月 6日 発達障害傾向のある子どもに対する対応について

2016年7月13日 「ピピオの家」「はばたけ荘」って、どんなところ！

2016年7月20日 思春期の子どもの心理

2016年7月27日 施設退所後の子どもたちの状況

・参加者：一般 9名、大学生 11名の計20名が受講。

このうち14名が全8講を修了し、さらにこのうち9名が、相談・面接を経て、ピピオのボランティアスタッフとして登録した。

その他、ピピオ子どもセンターの実施する以下の活動を支援した。

2016年10月1日～2日 子どもシェルター全国ネットワーク会議2016（岡山）参加

2016年11月24日～26日 日本子ども虐待防止学会（JaSPCAN）第22回学術集會おおさか大会参加
活動基盤の充実（広報活動の充実、普及活動等）

2016年1月24日に実施した「NPO法人ピピオ子どもセンター設立5周年記念シンポジウム」の記録誌を、ピピオ子どもセンター・シンポジウム登壇者・マツダ財団等の協力により、以下のとおり作成・

刊行した。

同記録誌は、児童虐待問題への対応を含む青少年健全育成に取り組む諸機関(全国のシェルター関係機関、大学等の研究機関、社会福祉関係機関、広島・山口の市民活動団体等)へ送付した。

また、同記録誌は、マツダ財団ホームページにて全文公開した。

- ・タイトル：『NPO法人ピピオ子どもセンター設立5周年記念シンポジウム記録誌「居場所のない子どもたちのスタートラインづくりのために」』
 - ・概要：全116ページ、850冊刊行
 - ・主な内容：
 - ．開催概要
 - ．シンポジウム記録
 - 第1部 活動報告 ～これまでの歩みそしてこれからの活動～
 - 第2部 パネルディスカッション
 - ．当日のアンケート
- (資料編)
- ．ピピオ子どもセンターについて
 - ．スタートラインプロジェクトについて
 - ．調査・研究実績

(4) 実施額

100万円(マツダ財団負担分)

- 5 . 第 3 5 回講演会

青少年健全育成事業の一環として毎年講演会を実施しています。本年度は講師にキャスターの国谷裕子氏を迎え、「2030年、その時、私たちは」と題して開催しました。講演の案内は県・市の教育委員会やPTAへ行き、また新聞・ミニコミ誌等を通じて広く聴講希望者を募りました。

当日は、風邪も冷たく曇り空でしたが1,300名のお客様にご来場いただき、会場はほぼ満席となりました。国谷氏は、NHK「クローズアップ現代」でのキャスター経験等を通じて、番組で取り上げたこと、これまでに会った人たちのこと、自分自身で続けてきたことを織り交ぜながら、これからの日本を担っていく世代へのメッセージとして、思潮社に語りかけてくださいました。

来場者からは、「食への関心（廃棄問題など）が高まりました。」「持続可能な開発目標（SDGs）について学ぶことができて良かった。」「今日の話を家に持ち帰り、小学生3人の子ども達と話したいと思う。」といったお声を多数お寄せ頂き、大いに満足していただけたものと推察しています。

講演会の概要は、次のとおりです。

- (1) 講 師： 国谷 裕子氏（キャスター）
- (2) 演 題： 2030年、その時、私たちは
- (3) 開 催 日： 2016年11月10日(木)
- (4) 開催場所： 広島国際会議場 フェニックスホール
- (5) 聴講者数： 1,300名

- 6 . 大学寄付講義の実施概要

社会人、企業人として必要な視点・能力を醸成すべく、「柔らかな社会」「地球の有限性」「人類愛」「国際化・グローバル化」を共通キーワードとして、地域の大学に対する寄付講義を実施しました。マツダ財団は各講座の企画、講師調整、講義準備、講座運営を担い人材、ノウハウ、コンセプト、講義等の提供を行いました。また、マツダ財団のネットワークや人的資源を活かした講師派遣も行いました。

(1) 対象学生と目的

工学系学生 (今年度開講なし) 近年、社会は高度かつ複雑に変化し、技術も多様な側面を持ちつつあります。次代の技術者として必要な社会における技術の多角的な視点(環境・情報・国際化・技術者倫理等)について、次世代を担う学生と共に考える双方向方式の講義です。

人文系学生 社会の仕組みを理解するとともに、現在の日本の課題、世界の課題を社会科学的視点によりとらえ、これから必要とされる「柔らかな社会」での生活者、社会人としての役割やビジョンについて次世代を担う学生と共に考える双方向方式の講義です。

(2) 特徴

複数の協力機関からの講師陣

キーワードによる講義の一貫性の保持

大学毎の特徴づけ

学生と講師の双方向授業

(3) 実施講義

実施内容は、以下のとおりです。

大学名	講義科目	期間	講師所属機関	特徴	開講年度
広島修道大学	キャリア形成特殊講義(ボランティア活動)	2016 5.21,5.28 集中講義 夏休み実習	・ひろしま市民活動ネットワーク HEART to HEART ・学生ボランティア団体「OPERATIONつながり」 ・比治山大学 ・(特活)ANT-Hiroshima ・(特活)これからの学びネットワーク	広島県内単位互換科目。講義と実地研修とを組合せた形で、ボランティア理解、ボランティア活動に必要なリーダーシップの育成・チームワーク力の醸成、ボランティア活動参加による感動体験を得ることを目的として実施。19名が10箇所の事業所や団体でボランティアとして活動した。	2000年

この他、以下の講座へ講師派遣を行いました。

広島大学大学院先端物質科学研究科「コミュニケーション能力開発講座(ディベート演習)」

広島大学大学院応用化学専攻「ディベート実践演習」

県立広島大学・庄原キャンパス「キャリアビジョン」(グローバルビジネスと商品企画)

県立広島大学・広島キャンパス「キャリアビジョン」(グローバルビジネスと商品企画)

尾道市立大学「キャリア形成入門」(大手製造業の業務内容と実態)

- 7 . その他の活動

マツダ財団は、科学技術の振興および青少年の健全育成分野の公益目的事業に取り組んでいます。取り組みにあたっては、公益の増進および活力ある社会の実現を目指し、既存事業の改革や新規事業の提案ができるよう、社会情勢の変化や社会課題に留意するよう心掛けています。

今年度も、青少年の健全育成分野において“若者自立支援”をテーマとして取り上げ、各方面からの助言を頂くために、有識者および若者等との意見交換、情報収集・分析・発信等を、以下のとおり実施しました。当活動の一部は、若者の問題に精通された有識者であり、かつ、本件の問題意識に最も近い研究者である、吉備国際大学 社会科学部 准教授 轡田竜蔵氏への委託研究とし、研究を通じたご助言・ご支援を頂きました。

さらに、この研究成果を踏まえ、有識者、市民活動団体および若者等との意見交換を重ね、次年度からの新規事業化構想の検討を、以下のとおり実施しました。事業化構想にあたっては、2017年度市民活動支援の審査選考プロセスを通じ、新規事業の連携先候補として3つの市民活動団体を選定しました。

以上の活動の結果、次年度からの若者のための新規事業「若者×ツナグバ」の事業計画を立案しました。

(1) 内容

若者自立支援の実施へ向けての調査・研究及び新規事業化

学術的成果（主担当：轡田竜蔵 准教授）

2016年5月	『ビジネス・レーパー・トレンド（2016年5月号）』寄稿
2016年9月18日	日本教育社会学会 シンポジウム「地方を生きる若者たち」パネラー
2017年2月22日	轡田竜蔵著『地方暮らしの幸福と若者』（勁草書房）刊行
2017年2月25日	講演「高梁川流域圏連携経済戦略会議」（倉敷市商工課）
2017年3月18日	『地方暮らしの幸福と若者』出版記念シンポジウム開催 （広島市中区、合人社ウエンディひと・まちプラザ）

事業化検討（主担当：マツダ財団）

2016年9月13日	新規事業化のための探索活動（於 三次市）を実施、2団体を訪問、意見交換
2016年9月21日	新規事業化のための探索活動（於 府中町）を実施、1団体を訪問、意見交換 （以後、3団体との意見交換を継続的に実施）
2016年12月15日	「調査・研究 若者自立支援に関する第1回ワイガヤ（第1回事業準備実行委員会）」（於 マツダ本社）開催。前述の3団体と轡田准教授を交え、意見交換
2017年1月13日	前述の3団体より、2017年度市民活動支援応募の申請書を受理、審査選考へ付議
2017年2月6日	「調査・研究 若者自立支援に関する第2回ワイガヤ（第2回事業準備実行委員会）」（於 三次市）開催。前述の3団体と轡田准教授を交え、意見交換
2017年2月13～14日	第33回（2017年度）市民活動支援選考委員会において審査
2017年3月24日	「若者×ツナグバVol.1（若者のための新規事業発足に向けたオープニングセレモニー）」（於 イオンモール広島府中）開催

管理事項の概要

- 1. 役員等に関する事項

1. 平成29年3月31日現在の役員・評議員の名簿

財団役職		常/非常勤	名 前	役 職
理 事 長	代表理事	非常勤	金 井 誠 太	マツダ株式会社 代表取締役会長
専務理事	代表理事	非常勤	吉 原 誠	マツダ株式会社 執行役員・総務・法務室長
常務理事	業務執行理事	常 勤	魚 谷 滋 己	公益財団法人マツダ財団 事務局長
理 事		非常勤	上 田 宗 岡	上田宗箇流 家元
理 事		非常勤	岡 谷 義 則	株式会社中国新聞社 代表取締役社長
理 事		非常勤	高 橋 超	広島大学 監事
理 事		非常勤	浜 中 典 明	公益財団法人広島市文化財団 常務理事
理 事		非常勤	平 谷 優 子	弁護士
理 事		非常勤	山根 八洲男	広島大学大学院工学研究院 特任教授
				(五十音順・敬称略)
監 事		非常勤	高 橋 義 則	公認会計士
監 事		非常勤	藤 本 哲 也	マツダ株式会社 常務執行役員
				(五十音順・敬称略)

財団役職		常/非常勤	名 前	役 職
評 議 員		非常勤	安 藤 周 治	特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター 代表理事
評 議 員		非常勤	大 杉 節	広島大学宇宙科学センター 特任教授
評 議 員		非常勤	越 智 光 夫	広島大学長
評 議 員		非常勤	小 柴 是 睦	公益財団法人中国電力技術研究財団 専務理事
評 議 員		非常勤	佐 藤 次 郎	一般財団法人日本語教育振興協会 理事長
評 議 員		非常勤	佐 野 庸 治	広島大学大学院 工学研究院長
評 議 員		非常勤	進 士 正 人	山口大学大学院 理工学研究科長・工学部長
評 議 員		非常勤	竹 林 守	マツダ株式会社 名誉相談役
評 議 員		非常勤	中 村 健 一	県立広島大学長
評 議 員		非常勤	長尾 ひろみ	公益財団法人広島県男女共同参画財団 理事長
評 議 員		非常勤	農 沢 隆 秀	マツダ株式会社 技術研究所 技監
評 議 員		非常勤	吉 田 総 仁	広島大学 副学長
評 議 員		非常勤	渡 辺 一 秀	マツダ株式会社 相談役
				(五十音順・敬称略)

2. 役員等の異動状況

・魚谷 滋己、浜中 典明の2氏は、平成28年6月17日理事に再任された。

- 2 . 職員に関する事項

役職名	名 前	主たる担当職務
事務局 長	魚 谷 滋 己	・ 事務局統括
事務局 長代理	佛 圓 哲 朗	・ 主として、科学技術振興関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・ 財団の普及・啓発に関する事業計画の策定及びその実施に関する事項
事務局 長代理	明 木 英 昌	・ 事業計画・収支予算の策定及び財務・会計に関する事項 ・ 理事会、評議員会、選考委員会の運営に関する事項 ・ 主として、青少年健全育成関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・ 大学講義開講に関する事項
総務課 長	世 良 和 美	・ 理事会、評議員会、選考委員会の運営に関する事項 ・ 主として、青少年健全育成関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・ 大学講義開講に関する事項
事務局	浅 原 真 実	・ 財務・会計に関する事項 ・ 講演会開催に関する事項

* 明木 英昌（事務局 長代理）は平成28年10月 1日付で就任した。

- 3 . 理事会・評議員会等、主な活動事項 (理事会)

会 議 名	開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
第 2 5 回理事会	平成28年5月30日	第1号議案 平成 2 7 (2015)年度事業報告及び決算承認の件 第2号議案 理事候補 2 名推薦の件 第3号議案 第 1 0 回評議員会招集に関する件 [報告事項] 1)2016年度科学技術振興関係事業助成の件 2)職務執行の状況	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第 2 6 回理事会	平成28年6月17日	第1号議案 業務執行理事及び常務理事選定の件 [報告事項] 公益法人の事業報告書等の提出書類	原案どおり承認可決
第 2 7 回理事会 (決議の省略)	平成28年9月26日	第1号議案 第 3 2 回(2016年度)科学技術振興及び青少年健全育成研究助成対象決定の件 第2号議案 第 3 3 回(2017年度)青少年健全育成市民活動支援計画決定の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第 2 8 回理事会	平成29年3月17日	第1号議案 平成 2 9 (2017)年度事業計画及び収支予算承認の件 第2号議案 第 3 3 回(2017年度)市民活動支援対象(青少年健全育成関係)承認の件 第3号議案 選考委員 1 3 名選出の件 [報告事項] 職務執行の状況	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決

(評議員会)

会 議 名	開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
第 9 回評議員会	平成27年6月24日	第1号議案 平成 2 7 (2015)年度決算承認の件 第2号議案 理事 2 名選任の件 [報告事項] 1)平成 2 7 (2015)年度事業報告の件 2)平成 2 8 (2016)年度事業計画及び収支予算の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決

(当年度の主な活動 - 上記会議以外)

活動項目	実施年月日	概要
第32回マツダ事業助成候補の募集	平成 28.4~5	科学技術振興関係
第32回マツダ研究助成候補の募集	28.4~5	科学技術振興関係
第31回(2015年度)青少年健全育成市民活動支援 贈呈書の贈呈	28.4~6 28.4.19、4.22	青少年健全育成関係 助成34団体に対し、贈呈書を贈呈
科学わくわくプロジェクト「サイエンスレクチャー」開催	28.12.13、12.17、 29.2.22	広島大学との連携事業
科学わくわくプロジェクト「ジュニア科学塾」開催	28.10.16、11.6、11.27 12.11、12.26	広島大学との連携事業
科学わくわくプロジェクト「小学校理科ひろば」 大学講義(安田女子大学)	通年 28.5.21、5.28	授業実践講座または模擬授業 「ボランティア活動」(広島県内単位互換科目)
平成27年度選考委員会(科学技術振興関係)	28.7.29、7.30	第32回マツダ研究助成対象の審議・選出
平成27年度第2回選考委員会(青少年健全育成関係)	28.7.26	第32回マツダ研究助成対象の審議・選出
「感動塾・みちくさ」実施	28.8.19~8.21 8.23~8.25 9.17~9.19	(公財)広島市文化財団と共催
第32回マツダ研究助成贈呈書の贈呈	28.10~11	助成対象者に対し、贈呈書を贈呈
第33回(2016年度)青少年健全育成市民活動支援候補 の募集	28.10~29.1	広島県、広島市及び山口県の青少年健全 育成主管部門等を通じて告知
第35回講演会	28.11.10	講師：国谷 裕子氏 演題：「2030年、その時、私たちは」
平成29年度第1回選考委員会(青少年健全育成関係)	29.2.13、2.14	第33回市民活動支援対象の審議・選出

- 4 . 所管行政庁への申請・届出・提出に関する事項

宛先	申請等年月日	申請事項等
内閣総理大臣(内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	平成28.6.29	事業報告等の提出
内閣総理大臣(内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	平成28.3.29	事業計画書等の提出

- 5 . 登記に関する事項

登記先	登記年月日	登記事項
広島法務局	平成28.6.28	理事の変更登記 ・平成28年6月17日 下記2氏 理事を重任 魚谷 滋己、浜中 典明

- 6 . 附属明細書

平成28年度(2016年度)事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項にて規定される「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書は作成しない。